



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 66

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

懐かしの1枚
瀬戸内海国立公園 葛島
昭和50(1975)年頃
仁尾町

大正14(1925)年に瀬戸内海の国立公園予定地となったことから葛島は観光地として開発されていく。昭和31(1956)年に瀬戸内海国立公園に編入された葛島は、それまで以上に観光地としてにぎわいを見せるようになった。丸亀藩主の生駒侯が平石の上で舞踏を演じて遊んだと伝わる平石巡りや海水浴などを目的に、多くの人々が葛島を訪れた。

「思い出の1ページ」

「この写真は、仁尾町誌を編纂するときに、私が提供したものです。昭和40〜50年代は、海水浴客が次から次へと来て大変にぎわっていましたよ」
今回、思い出話を語ってくれたのは、当時、葛島への渡船を運行する、葛島観光有限会社の代表を務めていた楠本久雄さん(83)。
「多い時には、年間3万人もお客さんが葛島を訪れていました。夏の時期は連休ともなると、大型バスが何台も来ていたんですよ。川之江や新居浜からも家族連れが遊びに来ていました。あまりにも多くのお客さんが来ていたので、『葛島が傾くぞ』という言葉があったくらいです。渡船の『つたじ丸』は定員46人乗りでしたが、すぐにいっぱいになっていましたよ。片道約5分で島に到着したら、お客さんを降ろして、すぐに折り返し、6隻の船が引切りなりに運行していました」
当時の盛況ぶりが伝わるエピソードとともに、楠本さんは自宅から持ってきた1枚の写真を見せてくれました。
「この写真にも、海水浴客がたくさん写っているでしょう。島には海の家やキャンプ場があって、お客さんたちはテントや蚊帳を持ち込み、寝泊りしてい



▲昭和35年頃の写真。渡船場に停まっているのが、つたじ丸



後記 編集
お茶の栽培には、防除や肥料としてさまざまな作業があります。そうして、農家さんが手間をかけて育てた結果、新芽には栄養がたっぷり含まれ、旨味が凝縮された新茶ができるそうです。それを知って新茶を飲むと、本当に味わい深く、一杯のありがたみを感じました。

ました。あの頃は他に遊びに行く観光施設が少なかったためにここに人が集まっていたんだし「ようね」
夏の一大レジャースポットだった葛島。時代は移り変わって、今は瀬戸内ダイヤアウトというイベントが毎年開催されています(詳細はP20)。今年の夏も葛島へ、ぜひ!